

国際高等研究所 基幹プログラム
「将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方」
2016 年度第 4 回研究会（通算 9 回）

日 時：2016 年 10 月 28 日（金） 15：00～18：00

場 所：科学技術振興機構 東京別館 4 階入札室 1

出席者：（8 人、敬称略）

代表者	有本 建男	国際高等研究所副所長・政策研究大学院大学教授
	大竹 暁	内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官
	隠岐 さや香	名古屋大学大学院経済学研究科教授
	狩野 光伸	岡山大学大学院医歯薬学研究科教授
	駒井 章治	奈良先端科学技術大学院大学ハイサイエンス研究科准教授
	宮野 公樹	京都大学学際融合教育研究推進センター准教授（スカイプ）
※欠席：	小寺 秀俊	京都大学大学院工学研究科教授

	三石 祥子	国際高等研究所研究支援部
	森口 有加里	国際高等研究所広報課

議題：

1. 中間のまとめについて
2. 今後の進め方について
3. その他

配布資料：

1. 各メンバーからのポイントメモ
2. 有本先生からの資料
3. 大竹先生からの資料
4. 第 8 回研究会概要

参考 1. 第 1 回合同会議議事概要

参考 2. 4 つの基幹プログラムのこれまでと今後

参考 3. シンポジウムについて

【中間報告について】

- 1) 2017年3月に、総論と各メンバーによる持論を含む中間報告を作成する。
- 2) 科学はこの200年間の論文至上主義、分析・専門分化至上主義から、大きく異なる価値観、方法論、エートス、評価方法を求められている。
- 3) 現状の延長、あるいは微調整による学問、科学技術の推進では、21世紀は、人類、地球、人々の生活の本格的危機を引き起こすとの危機感がある。また、このままでは学生、若手研究者が、科学技術への希望をもてなくなると憂慮がある。
- 4) 科学技術の目的を再考し、科学の方法、支援の方法、評価の方法の変革に具体的に着手する。その際のプログラム・プロジェクトを何にするか。具体的対応を含む中間のまとめを作成する。
- 5) これまでに行った対話（若手研究者／高等研にて、若手官僚／文科省横カフェにて、アジア若手科学者会議／学術会議にて）は、プログラム・プロジェクト案の試行として報告に含める。
- 6) 28日の研究会では、メンバーがポイントを箇条書きしたメモを持ちより、中間報告の内容を検討、構成を決める。

【中間報告後について】

- 1) 4つの基幹プログラム全体

2017年3月	中間報告書
2017年5～7月	関西および東京にてシンポジウム
2018年3月	最終報告書（4基幹プログラムの合本）
2018年9月頃	書籍出版
2019年2月頃	国際シンポジウム

- 2) 「科学技術のあり方」研究会

2017年度は中間報告を土台に、対話の場（若手研究者、若手官僚、アジア科学者会議など）を展開したらどうか。